特別研修

月例研究会　議事録（　5　月）

2010 年度第　1　回

報告題名　日本の植物油業界とパーム油市場構造の概観	
報告者　八木浩平	**日時 5 月 27 日　午後 3 時～**
（所属分野）　国際開発学	**場所　第 2 講義室**
座長　佐々木龍馬	**議事録担当者　福田哲也**

出席者

長谷部、木谷、安江、小山田、米倉、冬木、伊藤、石井、菅井、韓、デッフィ、スチン、八木、宮本、マヌルン、安部、神浦、佐々木、福田、水木、宮里、渡邊、山口、林、王、北村、堀、滝田、威、易、中村、泉井、金、覃、小原、片山、佐藤（良）、澤田、柴田、渋谷、千葉、藤、八鍬

報告要旨

本報告では、博士論文について、修士論文からの関連と、現段階における構想を述べる。更に、博士論文作成の直近の課題である「パーム油の市場構造の解明」に取り組むにあたって、パーム油関連製品を扱う企業の動向を概観し、課題を抽出する。

修士論文では、発展途上国におけるバイオディーゼル(以下、BD)産業が、容易に発展しえない現状を検証した。この BD 産業は、油糧作物価格や油脂加工製品価格の変動とも相互に関連しあっており、油糧作物に関連する産業の動向は、BD 産業と食料需給動向について考察する上で重要な論点である。これまでの研究では、消費者の生活により深く影響を及ぼす油糧作物関連産業と BD 産業の関連まで言及しておらず、近年の食料を巡る諸問題について考察する上では不十分である。そこで本研究は、BD の原料である油糧作物に注目し、市場の動向とアグリビジネス企業の行動を検証する。ここでアグリビジネス企業の行動を検証するのは、食料問題とその対応策を考察する上で、市場の最前線に立つ企業の行動が参考になると考える為である。具体的には、世界第二位の油糧作物輸入国である日本の植物油業界を研究対象とする。日本の植物油業界の取引相手国と取り扱う油糧作物の種類は多岐に亘っており、多様な作物で構成される油糧作物市場の動向を検証する上で適格な研究対象であると考える。

質疑・応答

菅井：スライド 23 のまとめの下のところで質問がある。製油業界ではスケールメリットよりも多品目少量生産の方が、コストが安く上がるという推察があったと思うが、そうだとすると「国内産業が成熟して外圧が…」というところは矛盾しないか？私は、国内産業が成熟してコスト競争が激しくなったという様に見たが、そういうことではないか？

八木：ご指摘の通り、製造価格の高騰というものが１つの大きな部分であると思う。あと、植物油の需要の増大というのも原因の１つであると思う。需要の増大というのは、例えばトイレタリーの部門において植物性のシャンプーなどの需要が増えたということがある。確かに、「国内産業が成熟し…」という部分の原因については、1 点はスケールメリットを作れなくなったという点がある。また、従来は少量多品目生産のほうが良いと言われていたが、阪神淡路大震災により工場がつぶれてしまい輸入に頼らざるを得なくなり、輸入に頼らざるを得なくなったことがあった。そのときに、輸入品でもそれほど違いがなかったということがあり、輸入品をもっと使ってもいいのではないかという方向に変化したということがある。「国内産業が成熟し」という言葉も使えないことはないと思うが、ご指摘の通り、原料コストの上昇と植物油需要の増大が原因であると考える。

石井：パーム油の加工品のうち工業品と食品を対象にしているが、関税率はどうなっているのか？具体的には、タリフエスカレーションといって原料の場合は関税率が低いが、加工度が上がるにつれて税率を高くするということが国際　競争において問題とされるが、それに相当するような圧力に植物油業界も晒されているのか？その辺りを知っていたら教えて欲しい。

八木：各品目の関税率は把握していない。今後、関税率も考慮していきたい。植物油の関税率に関しては、多国籍企業が作っている植物油輸入をストップしている原因が、関税率を高めに設定しているためであるといわれているので、高めに設定されているのと考えられる。

長谷部：利用形態のアルコールの用途は何か？

八木：高級アルコールはほぼトイレタリーが使っています。

長谷部：具体的には何か?

八木：洗剤であるとか石鹸であるとかに使われています。

長谷部：飲料用はないのか？

八木：飲料用としては少ないと思う。

長谷部：利用形態にマーガリンが多いがマーガリン用が多いのか？というよりも、食用を問題としているのか、加工を問題としているのか、それとも全体を問題にしているのかがわからない。全体を対象とするならば、どういうような経済学の考え方で処理するのかが見えてこない。また、輸入国市場、輸出国市場、国際市場での話が入り混じっていて、業界研究に入る前にそのあたりを整理し、何が問題なのかをはっきりさせたほうが良い。どういうマーケットなのか、例えば競争的なのかそうでないのかといったような視点とかが必要。業界、市場構造、企業の行動が入り混じると良くわからない。

八木：この研究に着手した理由は、市場構造が明らかになっていないということがあり、どこからどこまで日本の企業が垂直統合をしていて、どこからどこまで市場の取引をしているかといったような取引形態がどのようになっているかがわからないということがあり、パーム油全体を対象とした。そして、商品連鎖という概念を知り、それに当てはめた。

長谷部：当てはめてどうなったのか？

八木：当てはめてどうなったかとういことは、本報告では言及できていない。

長谷部：こういったことは一義的には大切であると思うが、研究なので新しい方法等を使って、今まで見えなかったものを示して欲しい。

八木：ありがとうございます。

伊藤：市場構造等を整理したときに様々な研究課題が出てくる。そのときに、製油なら製油の技術がどんな風に技術革新がされたのか、資本集約的で労働節約型の技術など生産技術がどう変わったのかをまとめておくと国内への進出とか見えてくることもあると思う。製油、食用油脂業界では大手の企業がかなりのシェアを持っているので、そういったところの社史などを参考に技術の変遷などを整理するのが良いと思う。

八木：ありがとうございます。